



## 鬼と節分

各地から梅の便りが届いています。

この時季、キャンプインする野球やサッカーの球団は大願成就を祈り神社にお参りをする様子がテレビで流れます。例年繰り返される光景ですが、今年の春のキャンプインはその様子も変わってきています。本市では、新型コロナウイルス感染症の影響で、新しくオープンした「いぶすきフットボールパーク（メイニンググラウンド・サブグラウンド・多目的グラウンド）」を利用したサッカーチームのキャンプもできなくなりました。このグラウンドを、幼児から高齢者まで、そして、グループホームなどの福祉施設に入居している高齢者、また、身体的なハンディを抱えた方々まで、多くの人たちの健康づくりや仲間づくりに利用してほしいと思っています。

さて、厳しい寒さの冬を過ぎると、2月2日は節分です。

菜の花が満開になっている地域もあります。北国では1カ月の降雪量が観測史上最大となり、平年の2、3倍も積もっている所があります。

厳しい冬があつてこそ節分の節分が待ち遠しく、間もなく訪れる春を楽しみにしている人もたくさんいます。

この時季になると思い出すことがあります。「鬼塚くん」という友達のことです。

鬼塚くんは「鬼は外」の掛け声とともに豆を投げるのが好きではありませんでした。

それ以来「鬼頭さん」「鬼沢さん」「九鬼さん」など苗字に「鬼」の付く人がいると、節分のことを思ったものです。

鬼を追い出してしまったら、縁起が悪い人もいます。

「鬼は内」と言っている人もいます。商売をする家では鬼を「鬼まね大荷」として、大きな荷物が内（家・お店）に入らないと商売繁盛につながらないため「鬼は内」と言っているようです。

ともあれ、鬼たちは人間の周囲に出没しているのでしょうか。笑う鬼の一方で涙を浮かべる鬼と、鬼への思いはさまざまです。

人間からすれば何とも恐ろしいな鬼たちを、豆の力で退治することができるユーモラスな光景が浮かんできます。

「節分と豆まき」。今年の恵方は「南南東」です。太巻きをばくつきながら鬼と一緒に新型コロナウイルス感染症を吹き飛ばしたいと思います。

立春が過ぎてもまだ寒さは続きます。でも、春はそこまで来ています。心の中の邪鬼たちにはどんどん退散してもらって、春の訪れを待ちたいものです。



指宿市長  
豊留悦男